

第 10 回 国際学術フォーラムを開催しました

淑徳大学アジア国際社会福祉研究所
第 10 回国際学術フォーラム

世界に拓かれる仏教ソーシャルワークの可能性
—理論と実践をつなぐスピリチュアリティの視点—

2026年1月31日（土）淑徳大学アジア国際社会福祉研究所は「世界に拓かれる仏教ソーシャルワークの可能性 —理論と実践をつなぐスピリチュアリティの視点—」をテーマとして第10回国際学術フォーラムを開催しました。

会場となった淑徳大学東京キャンパス9号館には、学内外・国内外から合わせて45名が参加、オンラインでの参加者は120名と、盛況のうちに終えることができました。

午前の基調講演では、スピリチュアリティとソーシャルワーク研究を国際的に牽引してきたエドワード・R・カンダ先生（カンザス大学名誉教授）と、日本宗教史・死生学の立場から島菌進先生（東京大学名誉教授）が登壇し、人間の尊厳や関係性を重視するスピリチュアリティの視点が現代ソーシャルワークを拡充しうる重要な手がかりとなることが示されました。



エドワード・R・カンダ 先生



島菌 進 先生

今井 洋介 先生



カルマ・サングボ 先生



今村 達弥 先生



対 談

午後の実践報告では、国内外の実践者・医療従事者の先生方から、ヒマラヤの児童を対象とした無償教育の取り組み、ビハラー病棟における仏教的理念に基づく緩和ケアの実践、クリニックにおける精神科医療現場での内観療法の応用など仏教的知見とケアについて紹介され、多くの参加者に強い印象を残しました。

また、登壇者によるパネルディスカッション、オンラインのゲストを交えた熱を帯びた議論が好評を博しました。

本フォーラムは、専門職化が進む現代のソーシャルワークにおいて、人びとへの包括的ケアや地域支援を考える上で、仏教的知見や宗教資源を適切に応用していくことが重要な課題であること、そしてその可能性を具体的に示す、ひとつの有意義な試みとなりました。



[お問い合わせ]

淑徳大学アジア国際社会福祉研究所
〒260-8701千葉県千葉市中央区大巖寺町200
asiainst@soc.shukutoku.ac.jp